



先輩組員に混じって本番までの作業を確認(1月2日)



新組員が本殿前で入団を報告(1月2日雨上げ式)



いよいよ本番、大太鼓を担いで巡行(1月11日)



神社境内で先輩やOBと一緒に松明結(1月3日)



火まつりフィナーレの喜びは全員で



炎の前で乱舞する松明組の若衆



1月11日の火まつりに松明組として初めて参加した新組員のみなさん。
左から横田 大知さん、大西 弾さん、本城 真輝さん、竹村 正暉さん、室岡 瑞喜さん、小嶋 瞬さん、京田 一輝さん

伝統の心の絆の火

ぼくたちが受け継ぐ

1月11日に、住吉神社(浮気町)と勝部神社(勝部町)で800年前から続くといわれる伝統の火まつりがありました。夜を焦がす大松明の炎に、地域の人も見物客も一年の幸せと無病息災を願いました。今回は勝部松明組として火まつりデビューした新組員を取材しました。

勝部松明組 令和元年度の新組員

新春に新組員お披露目 地域のまつり担う誓い

勝部神社の火まつりでは、燃え上がる大松明の前で禪姿の若者が乱舞する勇壮な光景が見どころとなっています。13歳から34歳で構成する「松明組」の若者たちで、祭りを取り仕切る中心的な役割を担っています。

新年を迎えたばかりの1月2日夜、火まつり当日の好天を祈願する「雨上げ式」が行われました。火まつり交流館に松明組約70人が集まり、先輩組員と勝部神社本殿へ神事を担うに相応しい言動を行うといった内容の誓いを立て、新組員としてお披露目されました。

新組員は地域に代々住む家や新しい家、マンションに住む子どもなどさまざま。「お父さんもやってきたから否応なしだった」「自治会のイベントでみんな楽しそうだった」「火まつりで観てかっこいいと思った」など動機もさまざまでした。

松明結は先輩やOB会も境内のいきわづらひ

1月2日の雨上げ式から、松明組の活動も大詰めを迎えて忙しくなります。

1月3日は中学生から80代の高齢者まで約70人が朝から境内に集まって、長さ約5m(菜種がらをにつけると約7m)、直径約1mの大松明12基を作ります。菜

燃え盛る炎に詰まった勇壮、感動、儂さも祈りへ

いよいよ1月11日の勝部火まつり当日。禪を巻いた組員たちが交流館に集まってきました。初めて禪を巻いた新組員も、寒さをしのぐための大きな焚火の

前で暖を取っていました。全員揃って、焚火の前で肩を組み乱舞をして士気と気合を盛り上げていきます。

火まつりの敢行を知らせるために3基の大太鼓を担いで町内を練り歩き、御旅所や組長宅などの要所で地元の歓迎を受け、先輩組員たちの熱気もどんどん高まっていきます。大太鼓の巡行が終わり、大松明6基を境内に運び入れるころになると、熱気に背中を押されるように、新組員と先輩の垣根はなくなっています。大松明に奉火された炎が夜空を焦がすほどに燃え盛る中、松明組の若者が乱舞する火まつりのクライマックス。

松明組では火まつりの翌日から新年度が始まります



令和2年度松明組組長 山中 友貴さん

新入組員の周りには年代の近い組員がたくさんいるので、今はただ同世代の子たちとがむしゃらに楽しんでもらえればいいなと思います。気がつけば松明組の良さにはまり夢中になり、一生ともに寄り添える友ができています。最初は作業も大変だと思いましたが、私も松明組として最後の年なので新入組員の子とともに松明組を盛り上げていければと思っています。

2人の組長から新組員へのエールをいただきました



令和元年度松明組組長 石田 翔大さん

松明組現役として最後の火まつりが終わりました。私が新組員の時は、先輩に怒られないようにしながら誰より目立ってやるうと思っていました。今年入ってくれた新組員も、揃って卒業してくれたらと願っています。若者が1年かけて作ってきた祭り。多くの人に観てほしい、歴代の組長や組員が誇れる団体であり続けてほしいと思っています。